

# 復興の先、次のステージを見据え



第3回議会定例会が8月21日から9月18日まで開かれ、佐藤町長は初日に所信表明をし「町を、次の世代に継承・発展させて行くための持続可能なまちづくりは、これからの4年間の正念場である。『誠実・実行』を基本姿勢として、これまで以上に町民の皆さまの声に耳を傾けながら、一つ一つ政策を実行していく所存です」と今後4年間の町政運営の基本方針を述べました。今号では、所信表明の概要を紹介します。

ました。

- 台風第19号からの復旧
- 新道の駅の建設
- 山田小学校の建設
- 山田北インターのフル化への要望強化

- 水産・商工業への支援
- 幼稚園・保育園の再編

以下、これら6つの公約を柱として、今後4年間に進める「まちづくり」について、具体的に述べさせていただきます。

## 台風第19号からの復旧

昨年10月12日深夜から13日未明にかけて東日本を縦断した台風第19号は、田の浜地区をはじめ大浦地区、豊間根地区などで195棟の家屋被害のほか、町内各所に甚大な被害をもたらしました。

特に被害が大きかった田の浜地区については、水害検証委員

## 所信表明の概要

私は、去る6月28日に執行されました山田町長選挙において、町民の皆さまをはじめ、各方面からの力強いご支援とご厚情を賜り、3期目の町政を担わせていただくこととなりました。

平成24年に初当選してからの8年間、未曾有の大震災から立ち上がるべく、「ふるさと山田」の復活を最優先に取り組んできたことに対し、町民の皆さまから一定の評価をいただきましたものと受け止めております。引き続き山田町長として、3期目の町

政のかじ取り役を任せていただくことに、改めてその職責の重さを痛感しており、ご期待に応えるべく、身を賭して大任を全うする覚悟であります。

私は、1期目の就任にあたり、「民間感覚を行政に」の思いを胸に、山田町の復興を確実に果たすべく走り続けてまいりました。続く2期目におきましては、「思いやりのある政治」を政治理念として掲げながら、ハード面の整備のみならず、町民の皆さま一人一人の思いと心の復興を大

切にし、町政運営にあたつてまいりました。この度、3期目を迎えるにあたりまして、これらの信念はいささかも変わることはなく、これまで以上に町民の皆さまの声に耳を傾けながら、一つ一つ政策を実行していく所存であり「誠実・実行」を基本姿勢として、今後4年間の町政運営に全力を尽くしてまいります。

さて、私は今回出馬するにあたって、重点施策として次の6つの公約を掲げさせていただきます。



台風第19号による被害（田の浜地区）

会からの提言や地域住民からの意見・要望を踏まえ、復旧方針・復旧整備計画を、本年6月に策定したところであります。

復旧方針では、準用河川女川や防災緑地公園の改良整備などにより、津波に対する防御機能の維持と併せて、土石流対策や排水機能の強化を図ることとしており、令和5年度末までの復旧を目指してまいります。その他の町内各所の復旧工事につき

ましても、令和3年度末までの復旧を目指し、順次進めてまいります。

### 新道の駅の建設

三陸沿岸道路は、おおむね令和2年度に全線開通する見通しを示されております。この機会を捉えて、多くの観光客をもてなし、喜んでもらい、また来ていただく、そして地域の生産者・事業者も元気になる

仕組みを作りたいと考えております。

その起爆剤となるのが、山田インターチェンジに近接する「新道の駅」の建設であります。山田産の生鮮食品や特産品が揃った産直施設や、町ならではのメニューを提供できる飲食施設などを盛り込んだ魅力ある施設の整備を、令和4年度中の開業を目指し進めてまいります。

また、本町のシンボルであるオランダ島が本年7月に復旧したことから、マリレジャーや無人島キャンプなどの体験観光との相乗効果を図りながら、町内へのさらなる誘客を促進してまいります。

### 山田小学校の建設

子どもたちの教育環境については、本年4月から待望の学校給食が始まり、小・中学校も再編し、新たなスタートを切ることができました。

近年、AIの発達やあらゆる場所でのICTの活用など、急速に社会環境が変化し、これまでに以上に子どもたちが社会を生き抜く力を育むことが、学校に期待されております。

また、安全で快適な学びの環境を整え、運営コストに配慮した施設整備を進めることが重要です。中学校周辺を文教エリアとして位置づけ、教育施設を集約化し、効果的・効率的な教育環境の実現に向けた取り組みも進める必要があると考えております。

山田小学校の新校舎建設については、多様なニーズに対応しながら、子どもたちが社会性を養い、コミュニケーション能力を培うことができる環境を整備してまいります。

### 山田北インターのフル化への要望強化

三陸沿岸道路山田北インターのフル化は、地元にお住まいの皆さまや通勤する方々にとって、



山田北インター

切なる願いであると承知しております。

また、フル化が実現した場合には、地域の救急医療を担う中核病院への所要時間が大幅に短縮されることや、物流への好影響などが期待できるものと考えております。

全線開通まで間近となりつつある状況を踏まえ、事業化に向けた課題や整備効果などの調査・研究を行いながら、宮古市をはじめ期成同盟会とも連携し、要望活動を強化してまいります。



## 水産・商工業への支援

言うまでもなく、水産業は、三陸沿岸の真ん中に位置する我が町にとつて、産業の柱であります。

被災した漁業関連施設は、ほぼ復旧いたしました。が、地球温暖化による海水温の上昇等により、海の状況が震災前に戻ることは極めて難しく、これまでと同じ漁業ができるとは限らないと認識しております。

つくり育てる漁業の推進や漁業担い手の育成に注力することに加え、県や漁協などと連携しながら、新たな増養殖技術の確



水揚げの様子（山田漁港）

立や漁場環境の整備に積極的に取り組んでまいります。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、本年4月に国から緊急事態宣言が発出されて以降、地域経済は大きく影響を受けております。特に小売店・飲食店などをはじめとした商工業者を取り巻く環境は、長期化が予想され先が見通せない状況が続いております。

こうした状況を受け、町では事業継続支援金、家賃補助、テイクアウト導入支援事業などの実施を皮切りに、本年7月にはプレミアム付商品券事業を実施したところであります。

今後におきましても、町内宿泊施設等の支援事業や特産品の消費拡大事業などを実施してまいります。

## 幼稚園・保育園の再編

全国的に進む少子化の進展により、本町における令和元年の出生数は61人で、平成元年の227人と比較すると166人減少しております。

町内の幼稚園・保育園は、就学前児童の教育・保育を担っておりますが、少子化の問題に加え、施設の老朽化も課題となるなど、町全体として幼児教育・保育施設のあり方を考える時期



遊具で遊ぶ園児の様子

に来ていると認識しております。

これらの問題に対応するため、関係者の話し合いの場を設けることを手始めに、町内全体の幼稚園・保育園の再編について議論を進めてまいります。

次に、新たな施策への挑戦として、5項目を掲げさせていただきます。

### ◆豊間根支所兼集会施設の建設事業化

豊間根支所は供用開始から30年以上、豊間根生活改善センターは45年以上経過し、施設の老朽化が著しく、利用者にご不便をおかけしていると感じております。

集会施設の機能を併せ持った同支所の建設事業化について、地元の皆様の意向も踏まえながら検討を進めてまいります。

### ◆町民プールの建設事業化

生涯にわたり、健康で健やかに生き生きと暮らせるまちづくりを進める必要があると考えております。

多くの町民が利用でき、健康増進や体力向上に役立つ町民プールとしても活用ができる、学校プールの建設事業化に向けた検討を進めてまいります。

### ◆大沢ふるさとセンター取り壊しと代替施設の建設事業化

集会施設は、地域コミュニティ活動の拠点として、欠かす



小学校の授業風景

ことができない施設であると同時に、避難所としての重要な役割も担っております。大沢ふるさとセンターは、供用開始から約40年経過し、老朽化が著しいことから、新たな施設として整備を進めてまいります。

#### ◆新しい養殖魚種の研究開発

秋サケの記録的な不漁を背景に、県内では新たな魚類養殖の実証試験が相次いで開始され、一部地域では出荷される段階まで来ております。

本町における新しい養殖魚種の研究開発に着手し、震災以降、漁獲量が低迷する町の漁業・水産加工業の未来を切りひらいてまいります。

#### ◆子どもたちの学力・スポーツ向上

子供たちの教育環境については、本年4月から小学校3校、中学校1校に再編し、新たな一歩を踏み出しました。これにより複式学級が解消され、切磋琢磨しながら学習や運動に臨む土

台ができたと感じております。

今後は、東京学芸大学との教育研究及び研修に係る連携協定が2年目を迎えることから、同大学の専門性を生かし、子供たちに多様性や地域特性をさらに生かした教育を提供しながら、学力・スポーツ向上への取組を進めてまいります。

◆ ◆ ◆  
最優先課題として取り組んできた10年を期間とする「震災からの復旧・復興」は、本年度で節目を迎えることとなります。

今回、お示しした施策は、復興の先、次のステージを見据えた新たなチャレンジに挑もうとする、私の決意を現すものであります。

目下、取り組むべき新型コロナウイルス感染症への対応については、感染の拡大防止に努めるとともに、状況に応じた対策を講じてまいります。

また、台風第19号災害からの復旧につきましても、機能を強化した復旧を図るなど、災害に強いまちづくりの推進に努めてまいります。

現在、町民の皆様のご協力をいただきながら「総合計画後期基本計画」の策定に取り組んで



役場屋上からの光景（9月撮影）

おります。復興後の新たな山田町のスタートにふさわしい計画にしたいと考えております。

我が町を、次の世代に継承・発展させていくための持続可能なまちづくりは、これからの4年間で正念場であると強く思っております。町民並びに議員の皆様さまのご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます、私の所信表明といたします。